

2010年11月4日

経済産業研究所BBLセミナー

戦後アジアの形成・変容と日本  
—バンドン会議から現代まで—

宮城 大蔵(上智大学)

## ◆本報告の構成

### 1) バンドン会議(1955年)。

- ・その後、何が変わり、何が変わらないか。(「論理」と「地域力学」)

### 2) 戦後アジアの形成と変容

- ・アジアを形作った「4つの論理」と「3つのアジア」

- ・その中における日本の位置づけと役割

### 3) 今日の課題

# 1) バンドン会議

- ・1955年、アジアの新興独立国(29カ国)が参集(欧米なしは史上初)
- ・「反植民地主義」と「相互の連帯」 — 「独立の希求」
  
- ・だが実際には「冷戦」の色彩。  
インド＝中国の「平和五原則」 vs. 自由主義アジア諸国(比、トルコ等)
  
- ・日本: 戦後初の国際会議。「アジア復帰の絶好の機会」。鳩山政権。  
日本招請 — パキスタンの主導(中国とのバランス。「反共最大の人物」)。  
米の圧力(反共陣営の一員を要求)と「アジア復帰」とのジレンマ。  
→ 政治的な課題は回避して経済を前面に。戦後アジア外交の原型？



## ◆バンドン会議から半世紀...

何が変わり、何が変わらないか。

### ◇変わったもの...アジアを形作る「論理」

「独立」 → 「経済」

戦後、他にはどのような「論理」があったのか？

→「4つの論理」

### ◇変わらないもの...地域の力学

対中バランスーとしての日本

「3つのアジア」相互のバランスと連関

(北東アジア・東南アジア・南アジア)

### ◇戦後アジア国際政治＝「4つの論理」と「3つのアジア」の組み合わせ

## 2) 戦後アジアの形成と変容

### ◆「4つの論理」(アジア秩序の競合)

- ・冷戦 ー反共か、否か。ドミノ理論。アメリカ。
- ・革命 ー中国。革命外交から「平和五原則」。「北京＝ジャカルタ枢軸」
- ・脱植民地化 ー宗主国の影響力を残すか、払拭か。英。
- ・開発 ー政治的闘争ではなく、経済開発と成長による問題解消。日本。

→すべての「論理」の根底にあるのはアジアの独立とその後という問題。

- ・「転換の10年」(1965－75年)を経て前三者は希薄化。

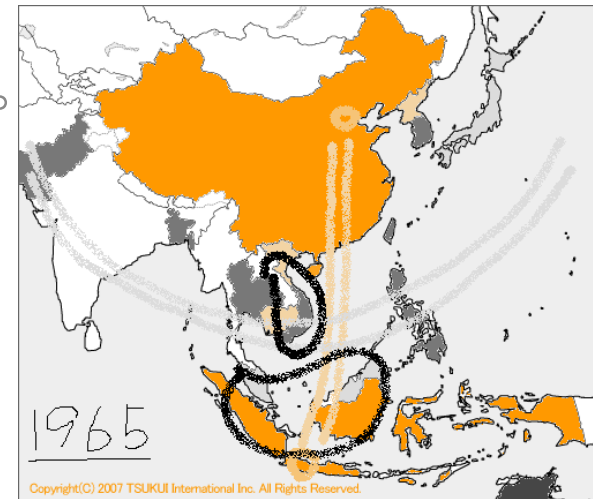
→アジアは「政治の時代」から「経済の時代」へ。

- ・日本:「開発」の論理＝「非政治化」。「経済の時代」の後押しに。  
急進的民族主義(スカルノ)、革命イデオロギー(中国)の「非政治化」  
対外援助の最大供与先＝①インドネシア、②中国、の政治的意味。  
反共と開発(安定)が最重要。(民主化、環境、人権)

◆「転換の10年」: 1965－75年

◇1965年 —「政治の時代」のクライマックス。

- ・「北京＝ジャカルタ枢軸」革命＋独立
- ・ベトナム戦争の本格化(米の全面介入)
- ・マレーシア紛争(スカルノvs. 英連邦)



◇「転換の10年」

- ・9.30事件(1965)。スカルノ失脚。「枢軸」崩壊。ASEAN結成(1967)。
- ・米中接近(1971-72)。冷戦と革命の「手打ち」。
- ・サイゴン陥落、ベトナム戦争終結(1975)。「独立の時代」の終焉。

◇1975年 —65年と全く異なる姿。冷戦、革命、脱植民地化の希薄化。  
→「政治の時代」から「経済の時代」へ: 日本との関与の深化。

## ◆「三つのアジア」

①北東アジア

②東南アジア

③南アジア

→「三つのアジア」の組み合わせで戦後アジアが形成・変容。

### ◇「アジア」の変遷

・1950年代 ①+③。中印提携。「平和五原則」。②は確立途上の面も。

・1960年代 ①+②で戦乱と緊張の舞台に。③は分離へ(中印紛争)。

・1970年代 ①+②は「経済の時代」へ。中国の「改革開放」。

③の分離は定着。

・1980年代 ①+②+太平洋 →「アジア太平洋」。APEC(1989-)。

・1990年代 ①+②の深化 →①+②=「東アジア」の登場。EAEC。

・21世紀 ①+②+③?

「東アジア共同体」=ASEAN+3/ +3?

## ◇「三つのアジア」と日本

- ・歴史的展開 : 南アジア(戦後初期～。1950年代には世界的注目)
  - 東南アジア(1950年代後半～。賠償。戦争の傷跡)
  - 北東アジア(1965年、70年代～。上記+冷戦)。
- ・日本の関心の重点
  - ・南アジア: 北東、東南アジアの代替、バランス。
  - ・東南アジア: 経済進出。安全保障関心の希薄さ。  
外交地平拡大の試み。
  - ・北東アジア: 安全保障上の関心(明治以来。特に朝鮮半島)。



### 3) 今日課題

#### ◆米の相対化

- ・中国台頭／ASEANの弱体化(アジア通貨危機)。日本:両者のバランス  
→ 政治(安全保障)と経済の「ズレ」。

1980年代には両者とも対米依存。

21世紀:米中心の同盟システム／経済のアジア域内一体化傾向。

この「ズレ」の行方が21世紀地域秩序の「鍵」。

#### ◆地域構想 =「論理」と「地域」の組み合わせ。

- ・戦後日本が影響力を投射できたのは、「開発」という次の「論理」を東南アジアという「地域」から(SEA=流動的ゆえに可変的)他のアジアへ。
- ・アジアに潜在する「開発」の次の「論理」は？

米中パワーゲーム史観を傍らに。

◆日本の対応　――地域秩序デザインの「三本柱」

①日米同盟の堅持と適切な強化:「真空」の発生を防止。

(中国における政軍関係にも関係)

②経済連携の強化:国内改革の必要性

③「論理」「価値」の問題:人権、民主化等。。。

:戦後日本に内在。明治以来の浮き沈みの歴史こそが教訓の宝庫。

・①+②で地域秩序の安定化。現状維持的なものであることも事実。  
長期的には③が大きな意味を持つ可能性。

「政治(独立)」→:「経済(開発)」→次の「論理」は？

・「アジア共同体」論は、「目標」ではなく「手段」(唯一ではない)である。

宮城大蔵『「海洋国家」日本の戦後史』(ちくま新書、2008年)

宮城大蔵「戦後アジア国際政治史」日本国際政治学会編『日本の国際政治学 4』

(有斐閣、2009年)